

**投資信託に関するアンケート調査
報告書**

2010年11月

社団法人 投資信託協会

＜目 次＞

1. 調査計画の概要	1
2. 調査結果の要約	3
3. 投資信託保有状況(全体・現在保有者)	8
(1)投資信託の保有状況(全体) 【問 2】	8
(2)投資信託保有者の特徴(現在保有層) 【問 2】	10
(3)投資信託の保有種類(現在保有層) 【問 3①】	11
(4)投資信託の購入額(現在保有層) 【問 3②】	12
(5)株式投資信託の保有種類と購入額(現在保有層のうち株式投資信託保有者) 【問 4①②】	13
4. 投資信託購入状況(現在保有層・保有経験層)	15
(1)投資信託購入のきっかけ 【問 7】	15
(2)販売員の説明・勧誘方法 【問 8】 , 【問 8-1】 , 【問 8-2】	17
(3)投資信託購入の際の重視点 今後の重視点 【問 9①②】	21
(4)投資信託の購入資金 【問 6】	24
(5)投資信託の購入目的 【問 5】	26
(6)投資信託の運用実績評価 【問 13】	28
(7)償還・売却資金の流出先 【問 14】	30
(8)分配金の特徴認知状況 【問 10】	32
(9)目論見書閲読状況 【問 11】 , 【問 11-1】	34
(10)運用報告書閲読状況 【問 12】 , 【問 12-1】 , 【問 12-2】	38
(11)評価会社による運用評価の認知・利用状況 【問 15】	44
(12)投資信託会社のホームページ利用経験 【問 16】	46
(13)投資信託の優れていると感じる点 【問 17①②】	48
(14)投資信託の不満を感じる点 【問 18①②】	51
5. 投資信託保有未経験者の状況	55
(1)投資信託の購入意向経験 【問 19】	55
(2)投資信託の非購入理由 【問 20】	57

6. 投資信託に関する認知・接触状況(全体).....	60
(1)投資信託の認知状況 【問 1】	60
(2)投資信託に対する関心度(投資信託認知者) 【問 1-1】	62
(3)投資信託のイメージ 【問 26】	65
(4)投資信託の商品内容認知状況 【問 27】	67
(5)投資信託について入手したい情報 【問 28】	69
(6)確定拠出年金の加入状況 【問 29】	71
(7)上場投資信託の認知と興味 【問 30】 , 【問 31①②】	73
7. 投資信託をはじめとする金融商品への期待・関心状況(全体).....	79
(1)貯蓄の運用方針 【問 21】	79
(2)現在保有している金融商品と今後取引対象として考えている金融商品 【問 23】 , 【問 24】 , 【問 25】 ..	81
(3)希望する投資信託商品と購入方法(投資信託検討者) 【問 25-1】 , 【問 25-2】 , 【問 25-3】 , 【問 25-4】 ...	87
(4)資産運用に関する話題の登場頻度 【問 22】	95
(5)金融商品や投資に関する情報源 【問 34】	97
(6)最近の景気を踏まえた、資産運用やリスクについての考え方 【問 32】	99
(7)ソブリンリスク認知 【問 33】	101
(8)ソブリンリスク注目後の投資意識変化 【問 33-1】	103
8. インターネットによる金融取引状況(全体).....	105
(1)インターネット利用頻度 【問 35】	105
(2)インターネットによる金融取引経験 【問 36】	107
(3)インターネットによる取引経験のある金融商品(インターネット取引経験者) 【問 36-1】	109
(4)インターネットによる取引意向のある金融商品(インターネット取引未経験者のうち取引意向者) 【問 36-2】 ..	111
9. 調査対象者の属性.....	113

(付)調 査 票

1. 調査計画の概要

調査の目的：投資信託保有者層や投資信託保有関心者層に限定しない男女個人を対象に、投資信託に関する情報入手媒体や保有状況、購入意向を把握すると同時に金融商品の中での投資信託の位置付けを確認する。また、投資信託保有経験層に対しては、商品購入に至る状況を押さえることにより、今後の投資信託の販売および広報活動に役立つ資料となるよう設計している。

調査の背景：本調査は、首都圏、阪神圏居住の男女個人を対象とした投資信託との関わり方についての実態調査である。投資信託保有状況、投資信託購入状況、購入意向を中心とする投資信託への期待・関心状況、投資信託情報への接触状況等について調査を行った。

調査対象：首都圏、阪神圏に居住する 20～79 歳男女個人

標本抽出方法：エリアクォータサンプリング(1)+割当法(2)

(1) 調査地点の抽出

平成 22 年総務省住民基本台帳登録数に基づき首都圏・阪神圏の地域それぞれで確率比例系統抽出し、計 150 地点を抽出した。

(2) 対象者の抽出

各調査地点において、性・年代別割当に沿って抽出した。女性のみ、職業有無の配分についても、勘案した。

標本数：首都圏 900 サンプル
阪神圏 600 サンプル 計 1,500 サンプル

有効サンプル数：首都圏 906 サンプル
阪神圏 608 サンプル 計 1,514 サンプル
※設定数をオーバーした票は、回収が設定数を満たさないケースに備えて設定していたサンプルを追加したものである。

調査方法：調査員による訪問留置、訪問回収

調査時期：平成 22 年 7 月 16 日～8 月 5 日

調査主体：社団法人 投資信託協会

調査実施：株式会社 日本リサーチセンター

調査フレームの

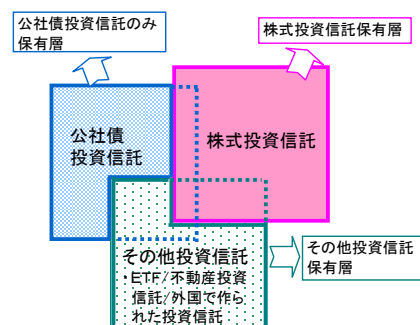
変更について：本調査は近年では平成 20 年、19 年、17 年、16 年、14 年、13 年に調査が実施されており、平成 17 年までは調査対象を世帯としていたが、平成 19 年から個人に変更した。その理由としては、消費活動が世帯ベースから個人ベースに移っていること、金融商品保有層が若年層にも拡大していること、金融サービスやインターネット利用状況は個人単位での利用が多いことなどが挙げられる。したがって、時系列比較については、平成 19 年以降から行っている。

グラフについて：本報告書の回答割合等の数値(%)は、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。単数回答の場合、数値(%)を足しあげても 100%にならないことがある。また、それぞれの N 数を合計しても全体の N 数にならない部分があるのは、無回答を除外しているためである。

<分析軸の内容>

分析軸		カテゴリー	備考
対象者属性別	性別	1 男性	F1から
		2 女性	
	年代別	1 20代	F2から
		2 30代	
		3 40代	
		4 50代	
		5 60代	
		6 70歳以上	
	年収別	1 100万円未満	F5から
		2 300万円未満	
		3 500万円未満	
		4 800万円未満	
		5 1000万円未満	
6 1000万円以上			
地域別	1 首都圏		
	2 阪神圏		
保有状況・保有種類別	保有状況別	1 現在保有層	問2 投資信託を「1. 現在持っている」の回答者
		2 保有経験層	問2 投資信託を「2. 以前持っていたが現在は持っていない」の回答者
		3 保有未経験・投信関心層	問2 投資信託を「3. 今まで持ったことがない」かつ 問1-1 「1. 関心がある」「2. やや関心がある」の回答者
		4 保有未経験・中間層	問2 投資信託を「3. 今まで持ったことがない」かつ 問1-1 「3. どちらともいえない」の回答者
		5 保有未経験・非関心層	問2 投資信託を「3. 今まで持ったことがない」かつ 問1-1 「4. あまり関心がない」「5. 関心がない」の回答者
		6 非認知層	問1 投資信託の「3. 言葉も知らなかった」の回答者
	保有種類(※)	1 株式投資信託保有層	問3 現在保有商品「2. 株式投資信託」の回答者
		2 公社債投資信託のみ保有層	問3 現在保有商品「1. 公社債投資信託」のみの回答者
		3 その他投資信託保有層	問3 現在保有商品でいずれかの商品を回答しており、かつ ・「2. 株式投資信託」の回答者 ・「1. 公社債投資信託」のみの回答者 以外の回答者

※保有種類別については、問3が重複回答のため、まずは「株式投資信託保有層」を優先して分類し、次に、「公社債投資信託のみ保有層」を分類、最後にそれ以外の回答者を「その他投資信託保有層」として分類した。(右図参照)



2. 調査結果の要約

(1) 投資信託保有率は9.8%。保有者の「株式投資信託」保有率は68.5%。1人あたりの合計購入額の平均は410.1万円で、「株式投資信託」の平均保有数は1.70種類。

- 投資信託の保有率は9.8%。保有率は年代が上がるにつれ高くなり、60代が19.5%で最も高い。ただし、60代女性の保有率は前回より低下。年収別では、1000万円以上の層の保有率が40.7%と特に高い。(P8~9)
- 投資信託現在保有層の特徴をみると、年齢別構成比は「60代」(34.2%)と「50代」(22.8%)が高く、50代以上が7割強を占める。“30代以下”の比率は微減傾向。職業別構成比は「無職・その他」(47.7%)がほぼ半数を占める。これに続く「自営商・サービス業」(16.1%)は時系列で見ると微減傾向。(P10)
- 投資信託の保有種類(現在保有層ベース)は、「株式投資信託」(68.5%)が特に高い。以下、「外国で作られた投資信託」(36.9%)と「公社債投資信託」(34.9%)がほぼ同率で続き、平均保有種類数は1.61種類である。平均購入額は「株式投資信託」は307.9万円、「外国で作られた投資信託」は275.9万円、「公社債投資信託」は253.9万円で、1人あたりの合計購入額の平均は410.1万円となっている。(P11~12)
- 株式投資信託の保有種類(株式投資信託保有者ベース)は、「国内株式に主に投資する株式投信」(50.0%)と「外国債券に主に投資する株式投信」(45.1%)が高い。平均保有種類数は1.70種類。(P13~14)

(2) 投資信託の運用実績は“期待以下”が過半数を占め、評価は悪化傾向が続く。販売員の説明・勧誘方法への満足評価も大幅に低下。購入時の重視点は「安全性の高さ」と「値上がり期待」が高いが、今後の重視点は「安全性の高さ」が特に高い。投資信託の不満点としても「元本保証がない」がトップ。分配金は「運用実績によって変動する」ことは大半が認知しているが、「支払われた額だけ基準価額が下がる」ことの認知は約20%に過ぎない。(現在保有層・保有経験層ベース)

- 投資信託購入のきっかけは、「証券会社や銀行等の人から勧められて」がトップで(58.0%)、他に大きな差をつけている。(P15~16)
- 投資信託購入の際の販売員の説明・勧誘方法は、「とても満足した」(3.5%)、「まあ満足した」(35.7%)を合わせた“満足層”が39.2%だが、前回より大きく減少。満足の理由は、「商品のリスクもきちんと説明した」(50.0%)と「商品の魅力をわかりやすく説明した」(49.0%)が高いが、前者は前回より11.4ポイント低下した。一方、「自分のニーズに合った商品を勧めた」が8ポイント、「商品の魅力をわかりやすく説明した」が6.5ポイント、それぞれ上がった。また、“不満層”は12.5%で、その理由は、「商品の説明がわからなかった」(25.0%)と「勧誘が強引だった」(21.9%)が高い。(P17~20)
- 投資信託購入の際の重視点は、「安全性の高さ」(45.9%)と「値上がり期待」(42.0%)が特に高く、「過去の運用実績」(30.6%)が続く。「特に考えず勧めで」購入した人は6.7%のみ。今後重視したい点としては「安全性の高さ」が特に高く(60.0%)、次いで「値上が

り期待」(40.4%)。(P21~23)

- 投資信託の購入資金は、「定期性の預貯金等から」(44.3%)が特に高い。次いで「月々の収入から」(30.2%)が高く、「ボーナスから」「退職金・相続等の臨時収入から」も10%強みられる。「定期性の預貯金等から」は、前回(52.8%)より8.5ポイント低下。(P24~25)
- 投資信託の購入目的は、「特に目的はないが資金を増やしたいため」(38.8%)と「老後の生活資金」(31.8%)が特に高い。次いで「資産のリスク分散」(21.2%)が高いが、これは前回(28.1%)より6.9ポイント低下。(P26~27)
- 投資信託の運用実績評価は、“期待以下”が過半数を超え(58.4%)、“期待以上”(12.6%)を大きく上回る。時系列でみると、評価は全体的に悪化傾向が続いている。(P28~29)
- 償還・売却資金の流出先は、「預貯金にまわした」(38.0%)が最も高い。以下、「生活資金にまわした」(25.9%)、「他の投資信託を購入した」(18.8%)、「株式・債券を購入した」(13.3%)の順。(P30~31)
- 『分配金』の特徴の認知率は「運用成績によって変動する」(74.5%)が最も高い。「収益が出た場合は支払われる」「成績不良時には支払われない場合がある」「毎月支払われる商品がある」「決算ごとに支払われる」などもほぼ半数が認知しているが、「支払われた額だけ基準価額が下がる」の認知率は20.4%に留まる。(P32~33)
- 目論見書を「全部読んだ」は2.7%、「必要と思われる項目を読んだ」は37.3%であり、“閲読経験率”は40.0%。目論見書の未読理由は「内容が多すぎて読む気にならない」(81.3%)が特に高く、「専門用語が多すぎるので理解しづらい」は49.3%。後者は前回より上昇し、「重要な箇所がわからない」(28.0%)は前回より低下。(P34~37)
- 運用報告書を「読んだことがある」のは58.4%。このうち“理解層”は58.4%と過半数を占める。閲読未経験者の未読理由は、「特に興味もなかったので」(49.5%)が最も高く、次いで「難しそうだったので」(35.9%)。後者の比率は低下傾向。(P38~43)
- 評価会社の運用評価については、「評価会社の評価を参考に購入した経験がある」は7.5%、「評価会社の評価を見たことがある」は39.2%であり、両者を合わせた“認知率”は46.7%。一方、「評価会社があること自体知らなかった」(51.0%)は、ほぼ半数を占める。(P44~45)
- 投資信託会社のホームページを「よく利用する」のは3.1%、「たまに利用する」は15.3%であり、“HP利用率”は18.4%。(P46~47)
- 投資信託の優位点は、「定期的に分配金が受け取れる」(46.3%)と「専門知識がなくても投資ができる」(43.9%)が特に高い。これに、「少額でも株式投資の面白みがある」(35.7%)と「比較的高い利回りが期待できる」(35.3%)が続くが、後者は低下傾向。特に魅力を感じる点は「定期的に分配金が受け取れる」(25.5%)、次いで「比較的高い利回りが期待できる」(16.5%)が高い。(P48~50)
- 一方、不満に感じる点は「元本保証がない」(59.6%)がトップ、次いで「手数料が高い」(37.6%)、「運用実績がわかりにくい」(32.5%)の順。特に不満に感じる点でも「元本保証がない」(36.9%)が特に高い。(P51~54)

(3) 投資信託保有未経験者のうち、投資信託を購入したいと思ったことが「ある」のは9.3%。
未購入理由は「投資信託がよくわからないので不安」が特に高い。(保有未経験層ベース)

- 投資信託保有未経験者のうち、投資信託を購入したいと思ったことが「ある」人は9.3%。
(P55~56)
- これまで購入しなかった理由は、「投資信託がよくわからないので不安」が特に高く(65.1%)、次いで「元本保証がない」(32.8%)。前者は、女性や年代が若い層ほど高い。投資信託への関心度別にみると、「少額では購入しづらい」「株式と同様に値上がり値下がりが激しい」「商品の種類が多く自分で選択できない」などは、投資信託に関心が高いほど高まる。
(P57~59)

(4) 投資信託の認知率は非常に高いが、“関心層”は14.9%(認知者ベース)と低い。投資信託内容認知率トップは「元本の保証はない」であり、投資信託に対する主なイメージは「仕組みがわかりにくい」と「元本割れが怖い」。入手したい情報は「分配金の額」「基準価額」「騰落率」「販売手数料率・額」など。

- 投資信託の認知状況は、「よく知っている」が12.7%、「言葉だけは知っている」が79.7%と認知者が大多数を占め、「言葉も知らなかった」のは7.5%のみ。(P60~61)
- 投信認知者のうち、投資信託“関心層”は14.9%と低い。“関心層”比率は、60代や年収が高い層で特に高いが、保有未経験層では6.8%に留まる。(P62~64)
- 投資信託に対するイメージは、「仕組みがわかりにくい」(40.7%)と「元本割れが怖い」(32.5%)の2つが特に高く、60代以上では「元本割れが怖い」が高い。保有未経験・投信関心層では「仕組みがわかりにくい」「用語がわかりにくい」が高く、知識がないために購入をためらっている様子が見えらる。(P65~66)
- 投資信託の商品内容の認知率は、「元本の保証はない」が最も高い(40.0%)。以下、「銀行等の金融機関でも購入できる」(26.0%)、「価格変動があり、外国投資は為替リスクがある」(22.5%)、「リスクとリターンは相互関係にある」(21.9%)、「国内の投資信託と海外の投資信託がある」(21.7%)が続く。一方で、「知っているものは特になし」(45.9%)も半数近くを占める。(P67~68)
- 投資信託について入手したい情報は、「分配金の額」(14.7%)、「基準価額」(13.8%)、「騰落率」(10.3%)、「販売手数料率・額」(9.1%)の順に高い。ただし、「特になし・よくわからない」が74.4%を占め、何らかの情報を得たい人は4人に1人程度。(P69~70)
- 確定拠出年金に「加入しており、投資信託を購入している」のは1.5%、「加入しているが、投資信託は購入していない」は2.4%で、これらを合わせた“加入率”は3.9%。(P71~72)
- 上場投資信託の認知率は、「不動産投信」が9.3%、「ETF」が6.8%であり、「どちらも知らない」が大半を占める(88.3%)。(P73~74)
- 上場投資信託のうち、ETFの保有率は1.2%、購入意向率は1.1%。不動産投信は保有率1.4%、購入意向率0.7%。いずれも「詳しく知らないのでわからない」が70%以上を

占め、「購入するつもりはない」は25%前後。(P75~78)

(5) 今後の貯蓄で最優先するのは「元本が保障されていること」が過半数で、リスクを取らない方向にある。今後取引対象と考える金融商品としては「普通預貯金」が特に高く、「株式」は13.1%、国内外の「投資信託」は5%未満。最近の景気を踏まえた資産運用等の考え方は「リターンが少なくても元本保証」。ソブリンリスクの“認知率”は13.4%であり、認知者の半数は投資意識に「特に変化なし」。

- 今後の貯蓄方法で最優先する考えとしては、「元本保証がされていること」(56.1%)が過半数を占め、時系列でも微増傾向。以下、「少額でも出し入れ自由」(16.9%)と「利回り」(10.8%)がやや高いが、後者は微減傾向。全体的にリスクを取らない方向に動いている。(P79~80)
- 現在保有している金融商品は「普通預貯金」(86.2%)が特に高く、「ゆうちょ銀行の定額貯金」(43.1%)と「定期預金」(38.8%)が続く。「株式」(15.1%)「貯蓄型保険」(12.5%)は10%台だが、「国内の投資信託」は8.7%。(P81~82)
- 現在保有している金融商品の総額は平均439.9万円。“300万円未満”(55.2%)が半数を超え、“1000万円以上”は10.3%に過ぎない。(P83~84)
- 今後取引対象として考えている金融商品は、「普通預貯金」(60.3%)が特に高く、「ゆうちょ銀行の定額貯金」(42.6%)と「定期預金」(41.9%)が続く。「株式」は13.1%、「国内の投資信託」は4.0%、「外国で作られた投資信託」は1.8%。(P85~86)
- 投資信託検討者が投資信託を新規または追加投資する際の投資信託の商品内容は、「安定重視のもの」(65.3%)が過半数を占める。「利回り追求のもの」は19.4%、「値上がり益追求のもの」は13.9%、「積極値上がり益追求のもの」は1.4%のみ。(P87~88)
- 投資信託検討者が投資信託を新規または追加投資する際の具体的商品としては、「国内債券に主に投資する投資信託」と「外国債券に主に投資する投資信託」が同率(44.4%)で最も高い。(P89~90)
- 投資信託検討者が投資信託の情報取得に利用したい方法は、「証券会社等で説明を受け資料請求」(63.9%)が特に高い。次いで「インターネットで調べる」(41.7%)と「新聞・テレビ等を見たり聞いたりする」(40.3%)がほぼ同率(約40%)で続く。(P91~92)
- 投資信託検討者が投資信託を購入する場合の保有期間としては、「3年以上5年未満」(27.8%)が最も高く、「2年以上3年未満」(19.4%)が続く。「特に期間は決めない」(29.2%)もやや高い。(P93~94)
- 資産運用が「よく話題になる」のは1.1%のみ、「たまに話題になる」のは25.1%。これらを合わせた“話題になる率”は60代や年収が高い層で高い。(P95~96)
- 金融商品や投資に関する情報源は「新聞」(32.0%)と「テレビ」(30.0%)が特に高く、「インターネット」(17.1%)が続く。(P97~98)
- 最近の景気を踏まえた資産運用やリスクについての考え方としては、「リターンが少なくても元本保証」(29.4%)が最も高い。「今が株式や投資信託購入のチャンス」は6.3%のみ。(P99~100)
- ソブリンリスクの認知率としては、「内容まで知っている」が3.1%、「言葉は聞いたこ

とがある」が13.4%であり、これらを合わせた“認知率”は16.5%。現在保有層では45.6%と半数近い。(P101~102)

- ソブリンリスク認知者の投資意識は、ソブリンリスクが注目されるようになってからも「特に変化はない」(49.2%)が半数を占める。これ以外では「リスクを意識した程度」が38.0%、「資産運用方針を見直そうと思っている」は12.8%、既に「資産運用方針を見直した」のは3.6%のみ。(P103~104)

(6) インターネットによる金融取引経験率は11.0%、利用経験はないが今後の取引意向がある率は6.3%。取引経験率は「普通預貯金」「株式・国債・公債・社債・転換社債」が高く、取引意向率では「株式・国債・公債・社債・転換社債」が最も高い。

- 普段のインターネット利用頻度(仕事利用を除く)は「ほぼ毎日」が29.6%を占めるが、「パソコンは持っていない・使わない」も30.1%みられる。(P105~106)
- インターネットによる金融取引の経験率は11.0%、利用経験はないが今後の利用意向がある率は6.3%。取引経験率は年収が高いほど高く、保有状況別では現在保有層、保有未経験・投信関心層、保有経験層の順に高い。取引意向率は20代や保有未経験・投信関心層で特に高い。(P107~108)
- インターネット取引経験者がインターネットで取引した金融商品は、「普通預貯金」(52.1%)、「株式・国債・公債・社債・転換社債」(44.9%)が高い。「投資信託」の取引経験率は8.4%。(P109~110)
- インターネット取引は未経験だが今後取引意向のある人が、インターネットで取引してみたい金融商品としては「株式・国債・公債・社債・転換社債」(51.6%)が最も高く、「普通預貯金」(38.9%)が続く。「投資信託」は5.3%。(P111~112)